

イエスのことば 第30回

イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」(マルコ 5:34)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元 27 年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元 30 年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 「承」の部において、12 の権威を見た。
2. ローマ軍団の将校がイエスの権威を認めた。イエスは百人隊長の信仰を高く評価すると共に、将来、世界中の異邦人がアブラハム契約の祝福に与かることを予告した。この後、「承」の部の結末、メシア拒否に入った。
3. 拒否の前触れは、先駆者ヨハネから出た。獄中のヨハネからイエスへの質問。
4. イエスは、多くのしるしを見せてきたガリラヤ地方の町々に対して、その不信仰を責めた。そして、拒否を目前にしていた時期における出来事が 2 つあった。
 - (1) 指導者層のひとりが、イエスを批判する口実を見つけようとして、イエスを食事に招いた。このとき、ある一人の「罪人」と呼ばれる女性が、イエスに対する信仰を行動で示した。
 - (2) 第 3 次宣教旅行。イエスは拒否を目前にしてもなお、神の国の福音を宣べ伝え続けた。このとき、多くの女性たちが自分の財産をもって一行に仕えた。
5. そして、ついに指導者層が公式に、イエスをメシアではないと拒否した。理由は「イエスは汚れた霊につかれている」であった。イエスは、その理由を 4 つの点で論破し、この拒否を「聖霊を冒瀆する罪」と呼んだ。この民族的な罪は、2 つの結果をもたらすことになった。
 - (1) この世代のイスラエルに提供されようとしていた神の国は、将来の世代に
 - (2) この邪悪な世代に対しての裁き（紀元 70 年、エルサレム陥落・神殿崩壊）
6. 指導者層による公式拒否を受けて、イエスの宣教活動に大きな変化が起きた。そのような変化には、二つある。
 - (1) 一つは、しるしに関して
 - ① 今後、イエスがメシアであることを示すしるしとしてイスラエル民族に与えられるのは、「ヨナのしるし」のみ、すなわち復活のしるしのみである。
 - ② イエスは、その後も奇跡を行ったが、それは、弟子たちに対してメシアとし

- ての権威を示すためである。イスラエル民族に対してのしるしは、ヨナのしるししか与えられない。
- ③ それまでの奇跡は、ご自身がメシアであることを示すしるしとして公然と人々の面前で行われた。そのとき、癒しなどを受ける人の側にイエスをメシアとして信じる信仰があるかどうかは、問われなかった。
- ④ しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスはもはや公然と奇蹟を行わない。人々の目のつかない場所に移動して行い、かつ、受ける人の側に信仰があることが条件となる。
- (2) もう一つの変化は、教え方に関して。イエスは、拒否を受けたその日、たとえば群衆に語り始められた。その日のうちに、イエスは5つのたとえ話を群衆に、さらに4つのたとえ話を弟子たちに、合わせて9つのたとえ話を語った。そのテーマは、「奥義としての神の国」についてであった。イエスが、たとえ話をういた目的は二つあった。
- ① 目的の第一、弟子たちには効果的に理解させること。イエスは、群衆にたとえで語った後に、弟子たちには意味を解説した。たとえ話に解説が加わることで、「奥義としての神の国」について、あたかもイラスト付きで理解させるような効果がもたらされた。
- ② 目的の第二、群衆には、たとえ話を語ったところで止めて、「奥義としての神の国」の情報を隠す。
- (3) メッセージの内容も変わった。それまでは、イスラエルの各地を巡り、町々で、ご自身がメシアであると宣言し、だから神の国は近づいたと説いた。しかし、指導者層による公式の拒否以降は、イエスをメシアであると宣伝することは禁止される（たとえば、マタイ 16:20）。この沈黙の方針が撤回されるのは、マタイ 28章 18~20節の大宣教命令においてである。
7. 公式拒否を受けた日、イエスが群衆に教えている最中に、イエスの母と弟たちが来てイエスを連れ帰ろうとした。このとき、イエスは、地上での血縁関係をすべて切って、信者との霊的關係のみを受け入れた。
8. 拒否を受けた日から、弟子たちに対するレッスンが始まった。
- (1) レッスン1・・・拒否の日の夕方から、日没後にかけて、ガリラヤ湖を舟で航行中に起きた出来事。イエスが風と波を鎮めて、自然を制する力を持っていることを弟子たちに示した。
- (2) レッスン2・・・向こう岸に渡ってすぐに起きた出来事。悪霊たちがイエスを恐れる。イエスは悪霊たちを制する力を持っておられることを弟子たちに示した。
9. 今回は、レッスン3である。対岸から戻ってから起きた出来事である。長血の女の病を癒し、会堂管理者ヤイロの娘を死からよみがえらせて、病と死を制する権威を弟子たちに示した。聖書箇所は、マタイ 9:18~26、マルコ 5:21~43、ルカ 8:40~56。

□本日の内容

1. 会堂管理者ヤイロがイエスのもとに来て懇願した（マタイ 9：18～19、マルコ 5：21～24、ルカ 8：40～42）
 - (1) マルコ 5：21～23 イエスが再び舟で向こう岸に渡られると、大勢の群衆がみもとに集まって来た。イエスは湖のほとりにおられた。すると、会堂司の一人でヤイロという人が来て、イエスを見るとその足もとにひれ伏して、こう懇願した。「私の小さい娘が死にかけています。娘が救われて生きられるように、どうかおいでになって、娘の上に手を置いてやってください。」
 - (2) マタイ 9：18a 見よ、一人の会堂司が来てひれ伏し・・・ひれ伏す、礼拝する。この表現は、ヤイロにはイエスを信じる信仰があったことを意味する。
 - (3) マタイ 9：18b 「私の娘が今、死にました。でも、おいでになって娘の上に手を置いてやってください。そうすれば娘は生き返ります」と言った。・・・ヤイロは、イエスがメシアであり、メシアには病を癒やし、死者をよみがえらせる力があると、信じていた。
 - (4) マルコ 5：24 そこで、イエスはヤイロと一緒に行かれた。すると大勢の群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。

2. 長血の女の癒し（マタイ 9：20～22、マルコ 5：25～34、ルカ 8：43～48）
 - (1) 12年間の患い（マルコ 5：25～26）

そこに、12年の間、長血をわずらっている女の人がいた。
彼女は多くの医者からひどい目にあわされて、持っている物をすべて使い果たしたが、何のかいもなく、むしろもっと悪くなっていた。

レビ 15：19～30 女に漏出があり、漏出物が体からの血である場合、儀式的に汚れた状態になる。この女に触れた者も汚れる。→ よって、この長血の女は、誰かから触れられてはいけなく、誰かに触れてもいけない。この女と接触した者は、儀式的な汚れを受けることになる。
 - (2) 女の信仰（マルコ 5：27～28）

彼女はイエスのことを聞き、群衆とともにやって来て、うしろからイエスの衣に触れた。「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたからである。

ルカ 8：44a 彼女はイエスのうしろから近づいて、その衣の房に触れた。・・・女は、イエスのからだに触れないよう、衣ではなく、衣の房に触れた。

(3) 女の癒し (マルコ 5 : 29)

すると、すぐに血の源が乾いて、病気が癒されたことをからだに感じた。

ルカ 8 : 44b すると、ただちに出血が止まった。

(4) イエスの反応 (マルコ 5 : 30~32)

イエスも、自分のうちから力が出ていったことに気がつき、群衆の中で振り向いて言われた。「だれがわたしの衣にさわったのですか。」

すると、弟子たちはイエスに言った。「ご覧のとおり、群衆があなたに押し迫っています。それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」

しかし、イエスは周囲を見回して、だれがさわったのかを知ろうとされた。

ヤイロの娘は危篤である。急いでヤイロの家に向かっているさなか、イエスが立ち止まり、今、自分にさわった者はだれか、と群衆に問うた。しかし、周りに押し迫っている群衆の誰も彼もが、イエスにさわっていたのである。弟子たちにしてみれば、何をいまさら、そんなことを問うのですか、それよりもヤイロの家に早くいきましょう、という気持ちであったろう。

このイエスの問いは、弟子たちのレッスンのためである。

そして、イエスは「周囲を見回して」、このときイエスは群衆の中の女に視線を向けたと推測される。イエスの視線を受けたときに、女は確信したであろう、「さわったのは私であることを、あの方は知っておられる」と。

(5) 女の告白とイエスのことば (マルコ 5 : 33~34)

彼女は自分の身に起こったことを知り、恐れおののきながら進み出て、イエスの前にひれ伏し、真実をすべて話した。

イエスは彼女に言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。苦しむことなく、健やかでいなさい。」

「あなたの信仰があなたを救ったのです」・・・彼女が癒されたのは、衣の房にさわったからではない。彼女は、「あの方の衣にでも触れれば、私は救われる」と思っていたが、それは誤りである。イエスは彼女の誤りを正した。

衣の房に人を癒す力はない。癒す力をもっておられるのは、メシアご自身である。そして、人の側に、メシアに対する信仰がなかったなら、どんなにメシアの衣に触れても、癒されることはない。彼女の信仰こそが、メシアから癒しを受けるための道である。

3. 会堂司ヤイロの娘を死からよみがえらせる（マタイ 9：23～26、マルコ 5：35～43、ルカ 8：49～56）

- (1) 死亡の知らせ（マルコ 5：35～37）

イエスがまだ話しておられるとき、会堂司の家から人々が来て、「お嬢さんは亡くなりました。これ以上、先生を煩わすことがあるでしょうか。」

イエスはその話をそばで聞き、会堂司に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」

イエスは、ペテロとヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分といっしょに行くのをお許しにならなかった。

- (2) 会堂司ヤイロの家に到着（マルコ 5：38～40a）

彼らは会堂司の家に着いた。イエスは、人々が取り乱して、大声で泣いたりわめいたりしているのを見て、中に入って、彼らにこう言われた。「どうして取り乱したり、泣いたりしているのですか。その子は死んだものではありません。眠っているのです。」人々はイエスをあざ笑った。

- (3) 娘を死からよみがえらせる（マルコ 5：40b～43）

しかし、イエスは皆を外に出し、子どもの父と母と、ご自分の供の者たちだけを連れて、その子のいるところに入って行かれた。

そして、子どもの手を取って言われた。「タリタ、クム。」訳すと、「少女よ、あなたに言う。起きなさい。」という意味である。

すると、少女はすぐに起き上がり、歩き始めた。彼女は12歳であった。それを見るや、人々は口もきけないほどに驚いた。

イエスは、このことをだれにも知らせないようにと厳しくお命じになり、また、少女に食べ物を与えるように言われた。

- ① 「少女はすぐに起き上がり」・・・ルカ 8：55 すると少女の霊が戻って、少女はたたちに起き上がった。
- ② 「人々は」=3人の使徒たちと子どもの両親（ヤイロとその妻）、計5人
- ③ 「このことをだれにも知らせないように」・・・しかし、少女が一度は死んだことは周知の事実。その子が元気になって動き回るので、よみがえったという噂は、人々の間で広まった。→マタイ 9：26 この話はその地方全体に広まった。